

口蹄疫の伝播リスクと防疫措置の評価に関する疫学的研究

研究期間	平成 23 年度～平成 25 年度
課題番号	2304
研究実施機関	(独)農業・食品産業技術総合研究機構(動物衛生研究所) (公)大阪市立大学 日本獣医生命科学大学 エム・アール・アイリサーチアソシエイツ(株)
研究概要	<p>2010年4月、宮崎県で口蹄疫が発生し、約29万頭の家畜が殺処分されました。今後、口蹄疫の防疫対策の充実を図るためには、今回の口蹄疫の伝播の特徴と防疫対策の効果について、疫学的手法を用いた詳細かつ多角的な分析を行うことが重要となります。</p> <p>そこで、本研究では、宮崎県での口蹄疫発生事例を用いて、口蹄疫の伝播リスクの解明と防疫措置の効果や効率性について経済的な面も含めて複合的な評価を行いました。</p>
研究成果の概要	<p>ケースコントロールスタディによって、宮崎県で発生した口蹄疫の伝播要因について明らかにし、ワクチン接種が口蹄疫流行に与えた影響や防疫措置に伴う事故の発生状況などについて詳細に分析しました。また、最新の科学的知見を網羅的に集積した口蹄疫のリスクプロファイルを作成しました。</p> <p>発生した口蹄疫について、時空間的に解析し、口蹄疫流行の特徴を地理的・地形的に視覚化して明らかにしました。また、処分家畜の埋却地や埋却ルートが発生に与えた影響について疫学分析手法を用いて解析した結果、有意なリスク要因とはならないことが明らかとなりました。</p> <p>発生した口蹄疫の流行を再現するモデルを構築し、様々な防疫対策の効果の評価するとともに、経済損失の算出システムを組み込んだ経済評価を実施しました。また、口蹄疫発生に伴う経済損失と防疫措置に要する費用を推定するための算出フレームを構築しました。</p> <p>消毒薬の効果に与える環境要因を明かにするとともに、野外で応用されている噴霧による方法や凍結防止剤の混入が消毒剤の効果に与える影響について明らかにしました。また、口蹄疫ウイルスの不活化について、各種の消毒薬の性状や効果など最新知見を文献等により収集整理しました。</p>

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載